

地域とともにある

勢いのある学校

No. 17 (R2. 9. 15発行) 文責 校長 福田雅也

高き志【こころざし】

「愛」の反対は…

「絆」…この言葉、最近よく使われるようになったと思われませんか。特に東日本大震災後からよく使われるようになったと感じるのは私だけでしょうか。もちろん、私たちが体験した熊本地震後もよく使われていたように思います。

そう考えるとこの言葉、私たちがつらい思い、きつい思いをしている時に思い浮かぶ言葉なのかもしれません。言い換えれば、私たちはつらいとき、きついときにこそ、周りにいる「様々な人々とのかかわり」を必要としているのでしょう。

今回このような書きだしをしたのには理由があります。以前目にした時に、自分の心に「すとん」と落ち、目からうろこが落ちるような思いをしたことを覚えている、マザー・テレサの名言の一つについて書いてみたいと思ったからです。それは、

「愛の反対は憎しみではなく、無関心です」

という言葉です。

反対語辞典で調べてみてください。「愛する」の反対語は「憎む」となっています。私もこの言葉を知るまでは、当然そのように思っていましたし、国語としてはそうなのです。しかし、マザー・テレサは、憎しみを抱く以上に、「無関心」であることこそが「愛」の反対であると言っているのです。目からうろこが落ちる思いがしたのは、このことを理解した時でした。さらに、「無関心」という言葉、上に書いた「様々な人々とのかかわり」を自らの意思で閉ざしてしまうような、とても冷たい言葉のように感じていたので、その反対が「愛」という、マザー・テレサの思いがとても納得できたのです。

- この言葉を思い浮かべながら、本校の子供たちの様子を改めて思い浮かべてみました。
- ・帰りの会の時に友達の良いところを見つけて「今日のキラリ」をたくさん発表できる1年生
- ・授業中に困っている友達がいると、すぐにそばに行って声をかけ、手伝ってくれる2年生
- ・みんなで遊ぶ日に「1年生を楽しませよう」と決めて、1年生を誘いドッジボールをしてくれた3年生
- ・「友達ができるようになることはうれしい」という素敵な思いを持ってくれている4年生（学級だよりから）
- ・12人という少ない人数のためか、みんな兄弟のように助け合いながら温かい雰囲気学級を作っている5年生
- ・登校班や掃除の時間に、1年生を優しく導いたり、しっかりと教えたりしてくれている6年生

このように、高木小の子供たちも「様々な人々とのかかわり」をたくさん求め、感じながら生活できています。回りの友達にたくさんの関心があるのです。一見すると当たり前のような日頃の関わり合いが「無関心」とは反対の体験として積み重なり、「愛」を育てているのだと思います。